

はくがんさん

第122号令和4年夏号

伊豆市 法住寺 発行

つながっている

中庭の灌木の根元のボサボサが気になっていた。這いつくばるようにして剪定したり掃除したりしていた。ふっと気付くとすぐ目の前にトカゲ、ちょうど真横に見る感じで口をパクパクしている。何かを食べているようだ、フワツとした草のような苔だ。へ〜えトカゲってこういうものを食べてるんだあ。まだ子供だ、警戒心がない。私に気付いていないのか、無心にパクパク。作業の手を少し動かし始めてもパクパク。そのうちにフツと頭

を真横に曲げピタツと目があつた。パツと手を出せば素手で捕まえられそうな距離、それでも逃げない。ジツと私をみている。何だかあどけない…かわいい…、何か会話したような気持ち、不思議だ。暫くするとトカゲの子供は灌木のなかにゆっくりと入っていった。



次の日の午前中は表庭、クガイ草が咲きだしたが周りはボサボサ。思い切って周りの野の花を抜いたり切ったりしてスッキリ。クガイ草が輝きだした。

午後からは花まつり、今年はコロナ禍もあって6月の十二日講で花まつり。お経の後にはチェロのミニコンサートだった。楽しんでくれる人がいれば喜んで演奏したい、そんな気持ちの演奏者。素直で心柔らかな参加者。曲が進むにつれてチェロの響きがのびてきた。チェロの周りには見事な花菖蒲、地元の知り

合いが丁寧に育ててい

花まつりチェロ 塩田研士さん



だした。また何人もの親しい懐かしい方々が聴きにきてくださった。手作りの良いコンサートだった。帰り際に今朝、手入れしたクガイ草を撮っている方々がいた。



これらには何か繋がったものがあるように感ずる。今の世の科学や合理では説明できないのだが…。この記事を書き終えて数日後嬉しいメールを頂いた。

『チェロで聴く 賢治の曲や 南風ふく

修愚

チェロの音を 聴き洩らさんと 花菖蒲

夢女』

きっとあのトカゲもクガイ草も耳を澄まして聴いていたように思う。

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます

社会の皆さん ありがとうございます

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます

合掌

合掌

合掌



るものを今年も頂いてきた。聴く人たちと演奏者、そして周りの花々、境内の樹木や小鳥、活き活きと交流し

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

先日住職がどなたかと話しているのを偶々聞いていました。「そりゃあ愚痴も言いたいだろうが、愚痴は言い始めると自分では気付かないうちに愚痴ばかり言うようになってしまう。同じく悪口も言い始めると、もつと悪口を言いたくなりドーンと落ちてしまう。だから言わない方が良い」と。

あつ。確かに。以前仏飯を下げている時に、愚痴めいたことをこぼした私に、「思ってもそれを口に出したらおしまい」と洋明上人に言われたことを思い出す。確かに、確かに。それからというものは私なりに、なるたけ思っても口に出さないという小さな努力をしてきた。不思議なことに穏やかな気持ちになれることがある。そのことは私にとって幸せなことだ。



人は各々、自分の物差しを持っていて、その物差しで物事を良いとか悪いとか判断してしまう様だ。その為に自ずから悩みや迷いを抱え込んでしまうこともあると思う。しか

しちょっと離れて客観的に眺めてみれば又違う見方に気付くかもしれない。お題目をお唱えしながら、ある日ごく自然に穏やかな気持ちになれたら幸せと思う。

護持会 伊東修会長退任、 伊東一衛新会長就任

第24期護持会新役員が決まり、伊東一衛さんが会長に選ばれました。「敬称略」

〔会長〕 総代 伊東一衛

〔副会長〕 総代 土屋正次〔総代〕 山田邦光

〔世話人〕(元村)山崎正行、伊東和也、

伊東謙三、(小川)室野泉、(清水)山下武志、

加藤正喜、山下克俊、(西)山田邦光、

森野智喜 〔監査〕 小塚健治、小塚秀夫

〔顧問〕 山下一、伊東修



伊東一衛新会長 あいさつ

檀信徒の皆さまにおかれましてはお変わりなくご健勝のことと思います。

私は今年度より伊東修前会長の後を受け法住寺護持会会長を拝命致しました伊東一衛と申します。どうぞ宜しくお願い致します。また前会長におかれましては長年法住寺及

護持会 新役員



(敬称略)
前列右より
副住職
土屋副会長
住職
伊東会長
山田総代
後列右より
伊東和也
伊東謙三
森野智喜
室野泉
山崎正行
山下武志
山下克敏
加藤正喜

び護持会の発展にご尽力頂きまして心より感謝申し上げます。

さて全国的に寺院での葬儀が減少傾向にあるようですが、法住寺では少しずつ増えているようです。凛とした厳粛な本堂でご本尊様に見守られながらお勤めして頂く葬儀は格別なものと考えます。より多くの檀家の皆さまにご利用いただけたらと思います。

法住寺が我々の将来の安住処となり子孫

にとつても心の落ち着く場所であり続けることを祈念し、ご住職さまはじめ皆さまのご協力を仰ぎながら護持に努める所存でございます。引き続き法住寺並びに護持会のご支援ご鞭撻をお願い致しまして新任の挨拶とさせていただきます。



伊東修前会長 あいさつ

平成十年、ご住職から総代推薦のお話しを頂き、せんえつながらお引き受けしたのは、ちょうど法住寺開山五百年慶讃事業本堂建設の話しが進んでいて「本堂建設準備委員会」を立ち上げた年でした。総代は、伊東繁春さん、森野正志さん、山下一さん小塚孝夫さんの諸先輩方の末席で、微力ながら本堂建立に携わることができました。何百年に一度のご縁に巡り会えたことは有難いことでした。本堂建設が進む中で目に止まったことを、俳句で辿ってみました。

建立の儀式はここから始まりました。

はげ紅葉遷座の読経唱和せり

仏像をお清めする仏師は

仏像を清む湯かげん良しと言ひ

お年賀に伺い

まつさらな本堂跡や初日差す

柿の木の切り株に

新しき切り株に雪積り初む

皆さんで経石を本堂建立の地に納めました。

老梅の香や山寺の地鎮祭

本堂の落慶を老若男女で祝いました。

落慶や青竹で呑む冷やし酒

これら、役員を務めさせていて頂いた時のことを振り返ると昨日のことのような気がします。

ご住職はじめ皆様に支えられてここまで務めさせて頂いたことに深く感謝申しあげます。



伊東一衛新会長は平成10年より2期6年間世話人をお務め頂き、本堂建立の初期から落慶までご尽力頂きました。宜しくお願致します。

伊東修前会長はご挨拶の通り平成10年

から6期24年間総代、平成25年から3期護持会長をお務め頂きました。本堂が出来上がって早くも20年、あの日々のこと、多くの方々を思い出し、心あたたまります。長い間誠にありがとうございました。

墓地草刈り用階段等整備

役員さんで第1第2墓地の草刈り用階段や道を整備して下さり、6月初めの草刈り作業で大変好評でした。

墓地整備

第1墓地を中心に雑草止コンクリート工事をしました。



本堂トイレ改修

本堂が出来て20年になり設計当初考えていた使い方と変わってきました。そこでコロナ感染対策もあり自動便器に改修しました。

寺子屋

コロナ感染の様子をみながら今年はいよいよ行います。

8月7日(日) 午前10時～午後5時
詳しくは別紙、またはホームページで。

お盆のお施餓鬼

8月3日(水) 午前10時、午後3時

午前10時 新盆関係者

午後3時 護持会役員、一般、十二日講、

祈願会等 尚十二日講、祈願会はこのお施餓鬼と一緒にいきます。



引いても尚余りある

法住寺の大きな封筒の下部には「野の花の寺」と記されている。その通り境内では野の花が沢山あるのだが、境内だけでなく本堂、書院にもその野の花がいけてある。誰がその花をいけているのかという母・昌子さん。

御志納金「三月～六月」

市川市	土屋 國夫	殿	御梵上砌
清水	森野 浩由	殿	尊父葬儀砌
元村	伊東かおる	殿	夫君葬儀砌
元村	故飯田 真光	殿	葬儀砌
川崎市	山下 泰	殿	尊母一周忌砌
伊豆の国市	吉田 次男	殿	永代供養砌
伊豆の国市	杉山 仁志	殿	愛妻葬儀砌

最近野の花のいけ花ファンが増えてきた。嬉しいことに月詣りの度「癒される」と携帯で写メってアルバムにして下さっている若い信者さんもいる。生け花は豪華絢爛なイメージもあるが法住寺では野の花一輪。良くする、良く見せるには何か足して足しての足し算のイメージがあったのだが、あるとき本堂で母がこんなこと言っていた。このいけ花は『ひき算』。足して足して美しくもいいが、引き算の美、なのだそう。

ある信者さんの人間関係の相談ごと。生意気にも自分が相手をどう見るかで変わる、あなたの見方ひとつで変わるとい話をした。その後、その信者さんは本堂の野の花のいけ花を見ているので「その花はひき算なんです」とまさに受け売り言葉。単純な私は、そのひき算は、押してダメなら引いてみる！の様に、足してダメなら引いてみる！的なものだろうと思っていたが、どうやら大きな思い違いをしていたようで、後日仏さまはすっかり軌道修正して下さった。



ひき算ひき算と受け売りしている私を見かねて母が一冊の本を渡してくれたのであ

る。そこには「花には沢山の要素がある。全体の姿、長さ、大きさ、重なり具合、枯れた物の面白さ、一本のすがすがしさ等々、その中から只一つ、他の事を全部すてても尚余りある、只それだけでよいという只一つの善さを見つけること」と。しかもその後「普通よくないと思う枝の中からも、よく見れば見つかるものである。その只一つのよさが、人を引き付ける力ともなる」とある。

これはまさに法華経の教え、単なるひき算ではない。いけ花をじつと見つめていた信者さんに、野の花一輪は何も言わずとも「苦手な人や普通よくないと思う人でも、よく見ればその良さが見つかるものである」と身をもって教えてくれたのだろう。まさに花に宿る仏性。だから法住寺には、仏さまの教えをくれる野の花がいけてあるのだと。



さて今月もまた本堂と書院には季節の野の花が皆さんをお迎えています。その花と、それを見る皆さんの、互いの只一つのよさがお題目の光明に照らされて輝きますように、毎朝お題目をお唱えしの太鼓を撃ちたいと思います。